国会会議録における言語表現の出現頻度に関する時間的変化モデルの検証

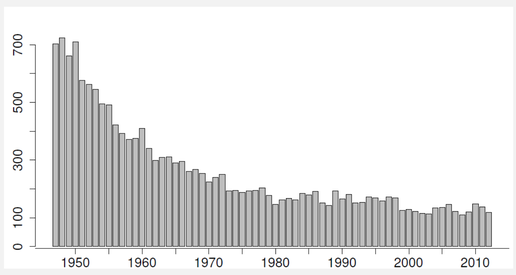
山口昌也（国立国語研究所）

背景

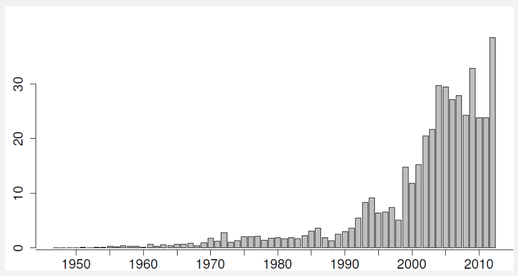
国会会議録における言語表現の時間的変化の予備的分析(2017)

- 出現頻度の時間的変化が大きい表現を網羅的に調査し，特徴を分析
- 衆議院予算委員会（1947～2012）に対して，出現頻度（正規化済み）の変化の大きい表現（文字5-gram）を抽出

減少傾向の文字列の例「であります」

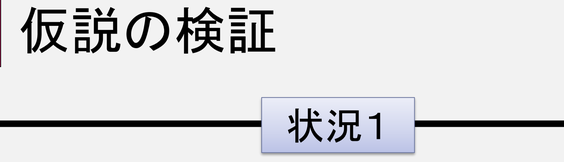


増加傾向の文字列の例「んですけれ」



- 会議特有の表現の減少
  例：「であります」「おきまして」「しましては」「おるという」
- 改まった場を想定しない表現の増加
  例：「んですけれ」「いるんです」「ないんです」

時間的変化の基本モデル



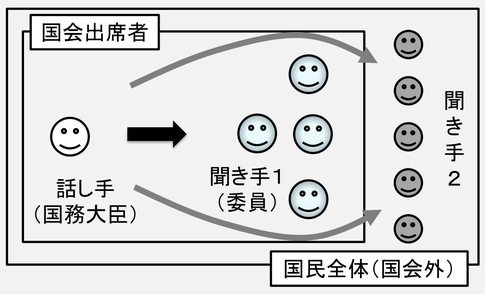
聞き手の範囲が
聞き手1から聞き手2に拡大
（テレビやラジオの影響）

聞き手2を考慮した
表現に変化

本研究の目的

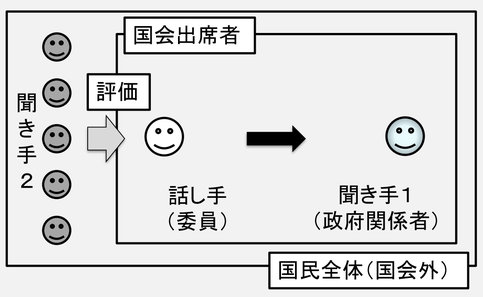
- 発話状況を考慮し，発話状況ごとに，出現頻度の変化の仮説を立てる
- 実データと基本モデルに基づき，作成した仮説を検証する

状況1： 国務大臣が委員からの質問に回答



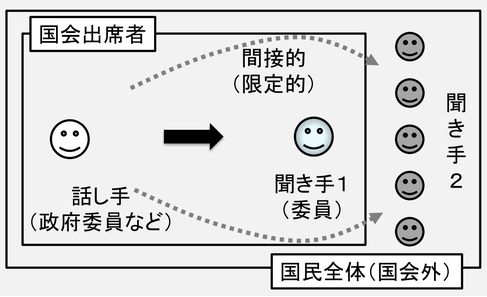
- 仮説1： 基本モデルと同様の変化が起こる
- 仮説2： 聞き手2を考慮し，聞き手1だけを想定した状況よりも高い敬意表現が使用される

状況2： 委員が政府関係者に質問



- 仮説3： 敬意表現に関して，聞き手2の影響は限定的
- 仮説4： 聞き手2の影響は，限定された聞き手2と話し手との関係に依存

状況3： 国務大臣以外の出席者が委員に回答



- 仮説5： 聞き手2の影響は限定的で，聞き手1と話し手との関係に依存

言語表現の抽出

対象とする資料

- 全文検索システム『ひまわり』用『国会会議録』パッケージ
  - 衆議院・参議院，本会議・予算委員会
  - 1947年～2012年の全議事録を収録
  - 今回は，衆議院・予算委員会のみを利用
- 各種アノテーションを利用可能
  - 文書構造（ヘッダ，討議部分，フッタ，付属情報）
  - 会議情報（開催年月日，回・号）
  - 話者情報（氏名，年齢，肩書）

抽出方法

- 『ひまわり』で話者を限定して，正規表現検索で，5-gramを検索
  状況1： 国務大臣，國務大臣，内閣総理大臣
  状況2： 委員
  状況3： 政府委員，副大臣，説明員，副大臣，内閣官房副長官，政府特別補佐人，大臣政務官，政府参考人
- 変化率を計測するため，
  1947-1965 / 1999-2012 の2期間で実施

抽出上の問題と影響

- 状況外の検索結果も含まれる
- ただし，調査した実例では影響は限定的

34回01号	趣旨説明
34回02～10号	質疑応答
34回11号	討論，採決
34回12～15号	質疑応答
34回16号	分科会報告，質疑応答

状況外の検索結果の割合（概算）

年	状況1	状況2	状況3
1960	5.6%	8.7%	48.5%
2010	8.4%	9.5%	5.9%

仮説の検証

いずれの仮説についても，否定するような結果はでなかった

状況1

【増加】しっかりと(99.9)，をさせてい(98.6)，ふうに思い(98.5)，せていただ(97.6)，だきました(97.2)，っています(96.3)，いるところ(95.2)，いただいた(95.0)，このように(94.9)，そういった(94.7)，うに思って(93.8)，ですけれど(93.0)，ところでご(92.6)，ろでござい(92.4)，おっしゃっ(90.9)，ければいけ(90.8)，いただきま(90.8)，いというふ(90.7)，まいりたい(90.3)，っていると(89.8)，をしている(89.3)，されている(87.6)，ましたけれ(87.2)，たけれども(85.7)，いるわけで(85.2)

【減少】おるのであ(-99.7)，、そうして(-98.9)，しておるの(-98.2)，いのであり(-98.0)，思うのであ(-97.5)，るのでござ(-96.2)，、かように(-95.5)，ればならぬ(-95.4)，おる次第で(-93.9)，、ただいま(-93.4)，第でありま(-93.3)，いたしたい(-91.1)，考えておる(-90.3)，ます。ただ(-86.2)，ます。しか(-84.6)，ります。こ(-76.0)，といたしま(-75.8)，ておるとい(-75.4)，ておるわけ(-75.3)，答えいたし(-74.2)，

仮説1

- 基本モデルと同一傾向
  - 「～オル」「～デアリマス」が減少
  - 「～フウニ」「～ケレドモ」が増加
- ただし，改まった場を想定しない表現は基本モデルより少ない

仮説2

- 状況1よりも敬意表現が増加
  - 「をさせてい（ただく）」
  - 「ところでご（ざいます）」
- 聞き手2への配慮
  - 「しっかりと」

状況2

【増加】ふうに思い(98.9)，んですけれ(98.9)，思うんです(98.6)，いるんです(98.1)，ないんです(97.9)，させていた(97.6)，んですね。(97.1)，っているん(97.1)，。そして、(96.4)，ています。(96.1)，んですが、(95.5)，んですよ。(95.0)，んでしょう(94.7)，んじゃない(94.2)，てください(92.9)，思っており(92.2)，いただきま(91.8)，に思います(91.5)，ていただい(91.4)，いというふ(89.8)，いるわけで(88.2)，いました。(88.0)，んですか。(88.0)，しょうか。(83.3)，ましたけれ(82.8)，のかという(80.5)

【減少】おるのであ(-99.4)，ればならぬ(-99.0)，うのであり(-98.1)，しておるの(-98.0)，たいのであ(-97.8)，されておる(-93.0)，ると思うの(-92.3)，おるという(-91.9)，うものは、(-90.4)，るのです。(-89.8)，におきまし(-89.0)，たしまして(-88.6)，といたしま(-88.0)，のでござい(-87.6)，いたしたい(-85.8)，においては(-84.0)，ましても、(-83.5)，うでありま(-83.4)，こういうよ(-83.3)，るならば、(-81.4)，ましては、(-81.0)，いたしてお(-80.2)

仮説3

- 改まった場を想定しない表現が増加
  - 「んですけれ」
  - 「思うんです」
- 聞き手2を配慮した敬意表現の増加は見られない

仮説4

- 聞き手1への圧力が感じられる表現
  - 「んですね」
  - 「てください」
- 聞き手2（支持者）へアピールする意図がうかがえる

状況3

【増加】ているとこ(98.3)，えさせてい(96.7)，ころでござ(96.4)，るところで(95.2)，うふうに思(94.4)，知しており(93.4)，せていただ(93.0)，をしている(92.9)，そういった(91.6)，されている(90.7)，ざいますけ(89.8)，いただいて(88.5)，ましたけれ(86.8)，おりますけ(85.1)，たけれども(85.1)，うことでご(85.0)，ったという(84.8)，いるという(84.8)，れども、そ(83.4)，ますけれど(83.3)，いました。(81.6)，それから、(80.9)，たがいまし(80.5)，とでござい(79.3)，思っており(78.1)

【減少】おるのであ(-99.7)，たのであり(-99.5)，ことに相な(-99.1)，るのでござ(-97.3)，おる次第で(-96.6)，第でありま(-94.8)，たしておる(-94.2)，計上いたし(-91.3)，るわけであ(-87.4)，す。しかし(-87.2)，あります。(-84.3)，ければなら(-80.9)

仮説5

- 言語表現の傾向は，状況1と類似
- 聞き手1への直接的，論理的表現が増加
  - 「したがいまして」
  - 「ことでございます」
- 聞き手2へのアピール表現が見られない

したがいまして逆にグループ数は増加の傾向にあるといったような状況にございます。（第151回11号）

刑事事件として取り上げるべきものが認められれば、それについてはきちっと対応をするということでございます。（第151回11号）